県指定及び市指定有形文化財（考古資料）

袈裟襷文銅鐸

Ritual Bell with Crossed Band Design

浜松市文化財課

Hamamatsu City,Cultural Properties Division

■袈裟襷文銅鐸とは

銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器です。中国四国地方から東海地方にかけての範囲を中心に分布し、絵柄から農耕に関わる祭祀に用いられたと考えられています。銅鐸分布圏の東縁部にあたる浜松市域では19口の銅鐸が出土し、14口は浜名湖北岸地域で出土したものです。特徴が明らかなものはいずれも弥生時代後期（約2000年から1900年前）のもので、袈裟襷文銅鐸と呼ばれています。吊り手に大きな飾耳をもつ近畿式とそれがない三遠式の２種があり、両者は生産地の違いを示すとみられます。浜松市は７口の銅鐸を所蔵し、いずれの事例も出土地が特定できます。このうち、前原鐸（三遠式）と滝峯才四郎谷鐸（近畿式）の２例は埋納状態も明らかです。浜名湖北岸地域の銅鐸出土地は集落から離れた丘陵斜面にあたるものが多くみられます。６口の銅鐸が出土した滝峯の谷（北区細江町中川）は、平野部から遮蔽された銅鐸密集地として広く知られています。また、浜松市内では弥生時代の集落遺跡の発掘調査によって３点の銅鐸破片が出土しています（いずれも近畿式）。銅鐸破片とともに出土した土器は、弥生時代後期前半（山中式）のもので、銅鐸が使用された時期をうかがい知ることができます。

浜松市内出土の銅鐸は、銅鐸分布東限域における銅鐸埋納行為の実態を伝えるほか、近畿式銅鐸の流入過程を良好に伝えています。弥生時代後期の銅鐸祭祀の実態と青銅器の生産や流通をうかがう上で極めて重要な資料群といえます。

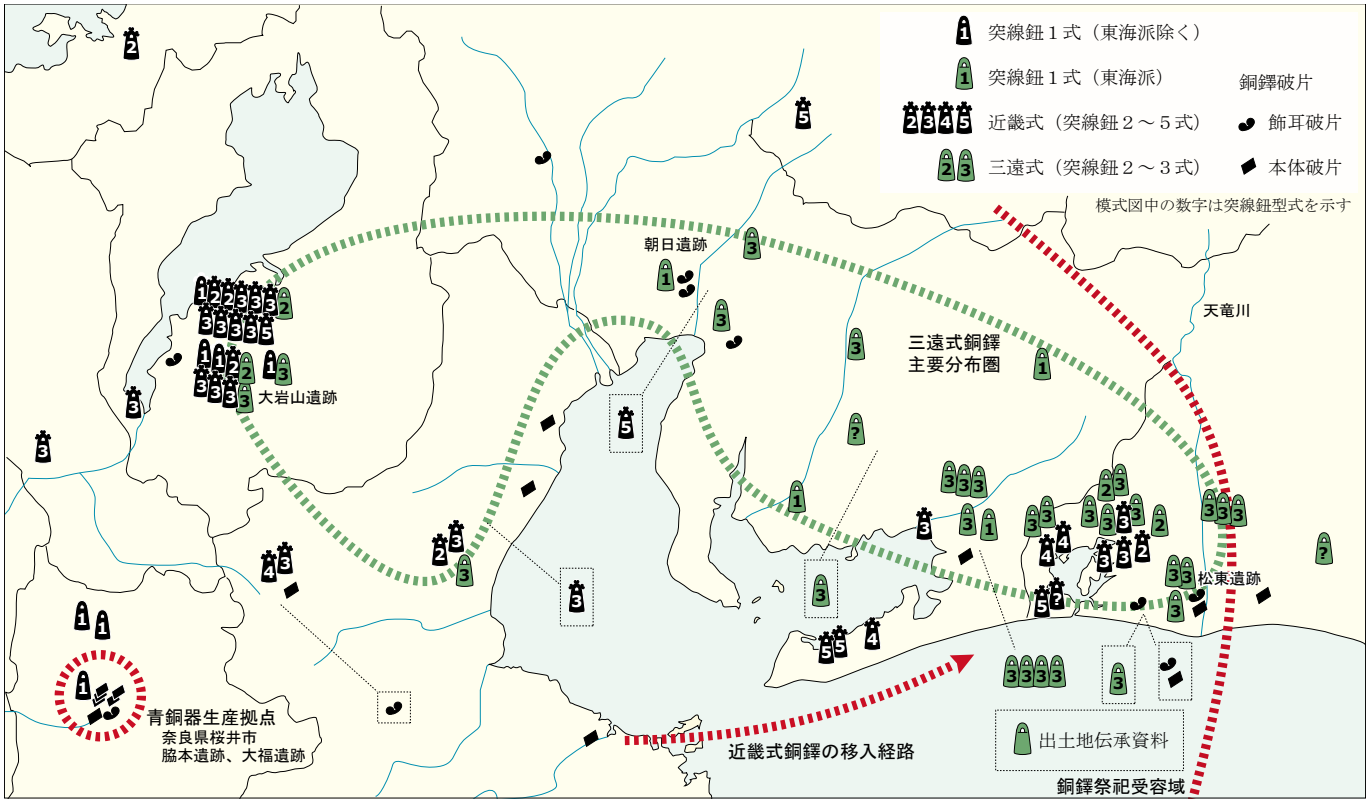
浜松市所蔵の銅鐸一覧

番号	資料名	出土地	出土年	銅鐸群	高さ（cm）	所蔵	指定（指定年月日）	備考
1	猪久保鐸	北区三ヶ日町日比沢	1965	近畿式	96.0	浜松市	県指定（1967年10月11日）	
2	七曲り1号鐸	北区細江町中川※	1966	近畿式	69.6	浜松市	市指定（2020年3月24日）	
3	七曲り2号鐸	北区細江町中川※	1966	三遠式	現在約 65.0	浜松市	市指定（2020年3月24日）	
4	不動平鐸	北区細江町中川※	1967	近畿式	72.3	浜松市	市指定（2020年3月24日）	
5	穴ノ谷鐸	北区細江町中川※	1987	近畿式	59.0	浜松市	市指定（2007年4月1日）	
6	前原鐸	北区都田町	1987	三遠式	68.5	浜松市	県指定（2000年11月17日）	埋納状態
7	滝峯才四郎谷鐸	北区細江町中川※	1990	近畿式	72.4	浜松市	県指定（1993年3月26日）	埋納状態

※ 滝峯の谷

参考資料（破片資料）

A	梶子鐸破片	中区南伊場町	1983	近畿式		浜松市		飾耳破片
B	松東1号鐸破片	東区天龍川町	1990	近畿式		浜松市		飾耳破片
C	松東2号鐸破片	東区天龍川町	2012	近畿式		浜松市		鈕破片



近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の分布

1 猪久保鐸

2 七曲り１号鐸

3 七曲り２号鐸

4 不動平鐸

5 穴ノ谷鐸

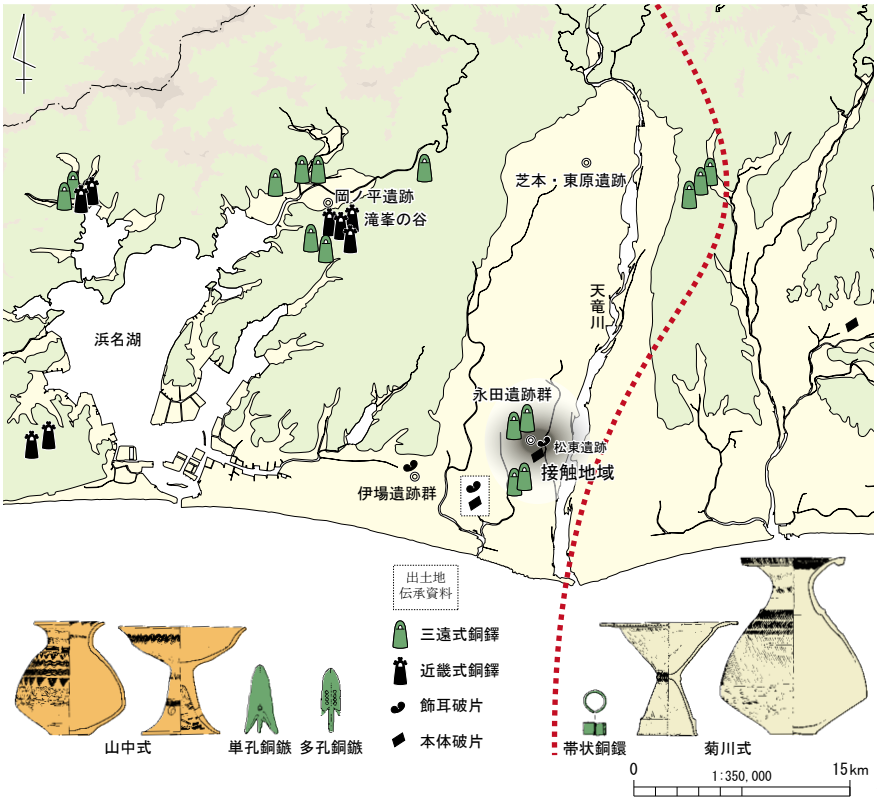
6 前原鐸

7 滝峯才四郎谷鐸

C 松東２号鐸

松東２号鐸の出土状況

浜松市所蔵の銅鐸



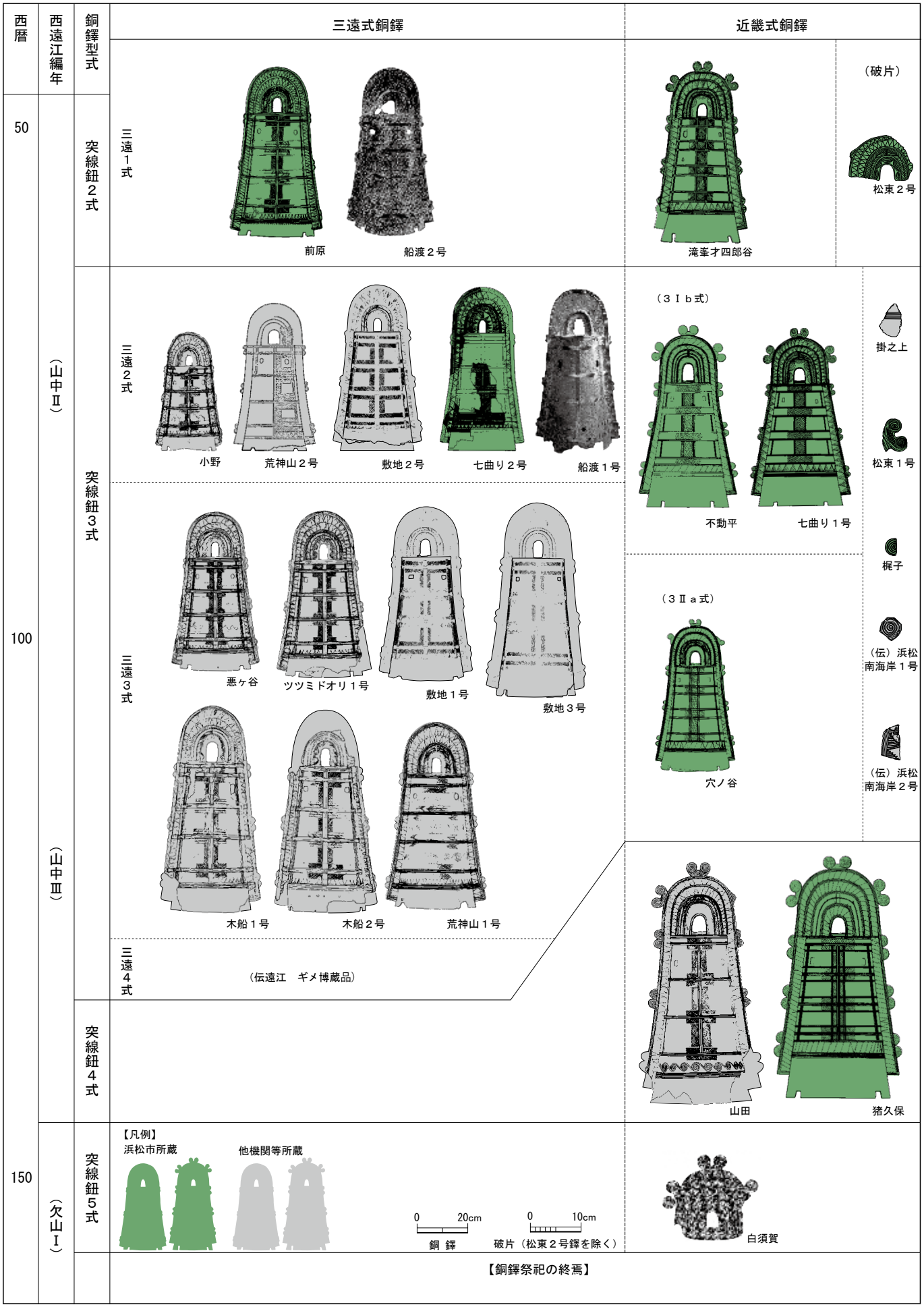
弥生時代後期における土器様式圏と青銅器

前原鐸の埋納状況

滝峯才四郎谷鐸の埋納状況

銅鐸の埋納状況

銅鐸の埋納状態がわかる事例は、いずれも銅鐸が埋まる規模の穴を掘り、側面を上下にして埋納されています。



遠江おける銅鐸の変遷

詳細は、浜松市教育委員会 2014『松東遺跡３次』参照（奈良文化財研究所運用の HP「遺跡報告総覧」にて閲覧可能）

表紙：浜松市所蔵の袈裟襷文銅鐸

発行　浜松市市民部文化財課
印刷　株式会社ハマプロ　2021.03刊行